

プレゼンテーション技術支援 ツール – PEAS のゼミ利用

法政大学 経済学部 竹口圭輔

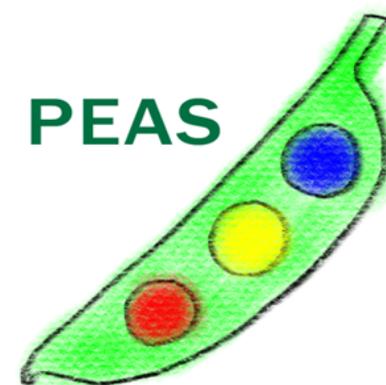
法政大学 情報メディア教育研究センター 藤井聡一郎

システムについて

- peasの概要
- 利用方法
- システム構成
- ユーザからのフィードバック
- 今後の展望

peasの概要

- スマホを用いた一般教室でのアクティブラーニングを実現
- 授業中リアルタイムに学生同士でプレゼンテーションを相互評価
- 結果は自動集計されグラフで表示
- Webアプリケーションにて実装
 - PC、スマホ両対応



利用方法

- 学生
評価の入力、評価結果の閲覧
- 教員
評価対象者の選択、コメントの削除
- 特徴
教員がリアルタイムに評価者を選択することにより学生は評価の入力のみ注力できる。

評価の入力 (学生)

peas ホーム 評価する 1 結果を見る 8

発表者: 法政 次郎 プレゼンテーション講座

Q1
冒頭でテーマとアウトラインを明示した
 はい いいえ

Q2
文字が少なく分かりやすいビジュアルだった
 はい いいえ

Q3
話すスピードと声の大きさが適切だった
 はい いいえ

Q4
聴衆とのインタラクションができていた
 はい いいえ

このプレゼンで参考になった点

改善したら良い点

提出する

法政大学 情報メディア教育研究センター

評価する 1 結果を見る 1

発表者: 法政 太郎
 第二回日本語プレゼンテーション (火3限)

Q1
問題を明示したか?
 はい いいえ

Q2
問題に対する具体的な解決法を示したか?
 はい いいえ

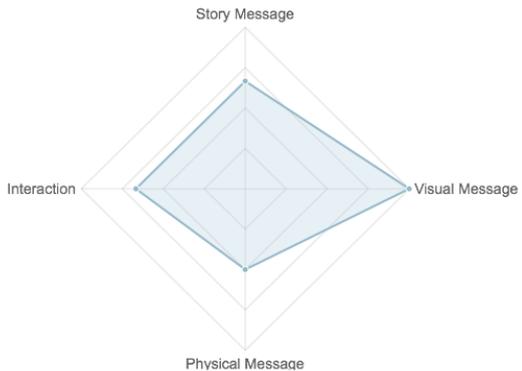
Q3
解決法導入による効果を実験で検証しデータで説明したか?
 はい いいえ

Q4
実験結果からその解決法が合理的と結論づけられるか?
 はい いいえ

< >   

評価結果の閲覧 (学生)

集計結果 第二回日本語プレゼンテーション (火3限) 法政 太郎



Total	Story Message	Visual Message	Physical Message	Interaction
6.33 / 10.0	2.67 / 4.0	1.00 / 1.0	2.00 / 4.0	0.67 / 1.0

このプレゼンで何について学びましたか? ③

- ピクトグラム 法政 次郎
- ピクトグラムについて 法政 三郎
- ピクトグラム 法政 四郎

良かった、あるいは今後の参考になった点を書いて下さい。 ③

- スライドがまとまっていて見やすかった 法政 次郎
- スライドに図や写真があってよかった 法政 三郎
- スライドが綺麗だった 法政 四郎

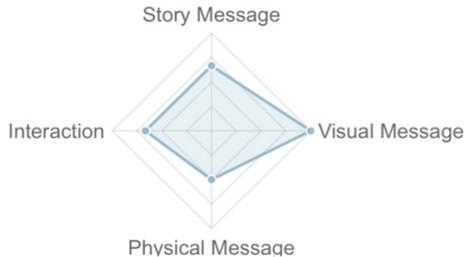
よりよくするための改善点。 ③

- 前を向いて発表する 法政 次郎
- もっと声を大きくするといいです 法政 三郎
- 原稿の内容を覚えてスムーズに話せれば伝わりやすく成ると思います 法政 四郎

docomo 10:11 mm16.media.hosei.ac.jp

評価する 1 結果を見る 9

集計結果 第二回日本語プレゼンテーション (火3限)
法政 太郎



Total	6.33 / 10.0
Story Message	2.67 / 4.0
Visual Message	1.00 / 1.0
Physical Message	2.00 / 4.0
Interaction	0.67 / 1.0

このプレゼンで何について学びましたか? ③

- ピクトグラム 法政 次郎

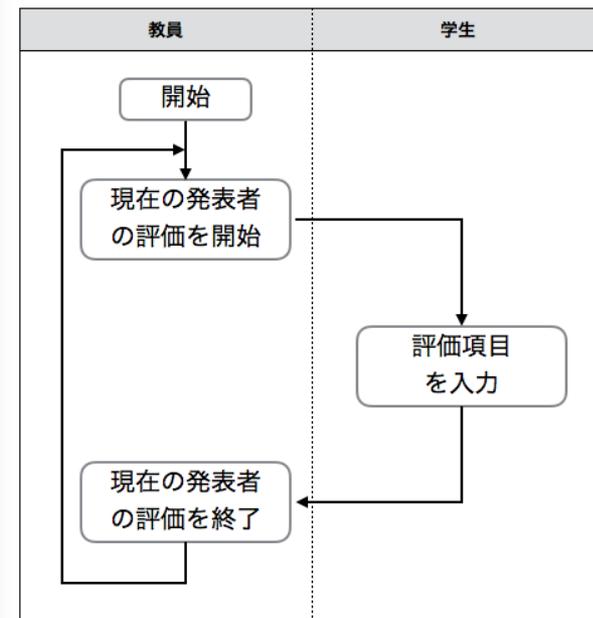
評価対象者の選択 (教員)

peas ホーム 評価する 1 結果を見る 0 結果一覧(TA) 設定(管理者)

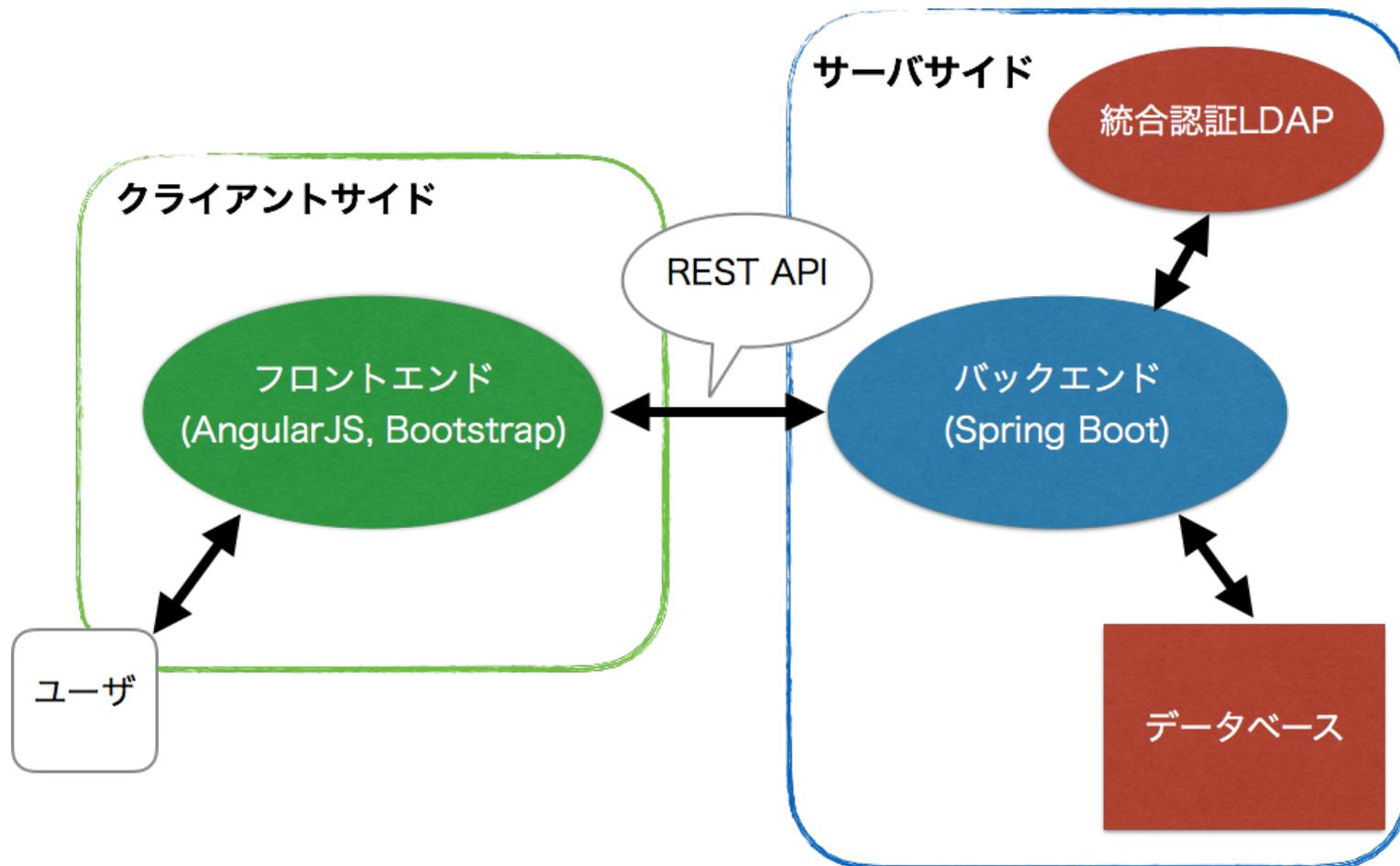
第二回日本語プレゼンテーション (火3限) 9

結果を公開する 設定 ▾

student1	法政 太郎	終了する	結果を見る 3
student2	法政 次郎	開始する	結果を見る 0
student3	法政 三郎	開始する	結果を見る 0
student4	法政 四郎	開始する	結果を見る 0
student5	法政 五郎	開始する	結果を見る 0
student6	法政 六郎	開始する	結果を見る 0
student7	法政 七郎	開始する	結果を見る 0
student8	法政 八郎	開始する	結果を見る 0



システム構成

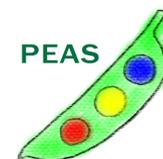


ユーザからのフィードバック

- 科目の削除機能が欲しい
- 非リアルタイムでの利用がしたい
 - 学生が評価対象者をリストから選択
- 科目の作成、ユーザの登録が難しい
 - 教員csv形式でデータを入力
- 評価の段階を増やしたい
 - 2段階→n段階
- 30人程度で同時に利用するとレスポンスが悪くなった

今後の展望

- 科目の作成、ユーザ登録の簡易化
 - 授業支援システムとLTI連携
- 学習ログの取得 (Caliper)
- 要望のあった機能の実装
 - 非リアルタイム評価、n段階評価、削除機能
- 負荷テスト
- 代替手段の用意の簡易化 (Google Formなど)



事例紹介 (1)

- 実施授業
 - 「入門ゼミ」
 - 1年生向けのクラス授業 (25~35名程度)
 - 大学生として必要な技術と、学部で必須となる基礎知識を身につける
 - 企業分析のプレゼンテーション (個人)
- 1年生ということもあり、プレゼン後にコメントを求めても、積極的に手を上げて発言する学生が少ないのが問題だった…

導入手順 (1)

- 「設定 (管理者)」から新規作成



The screenshot shows the 'peas' system interface. At the top, there is a navigation bar with the following tabs: 'peas', 'ホーム', '評価する 0', '結果を見る 0', '結果一覧(TA)', and '設定(管理者)'. The '設定(管理者)' tab is highlighted with a red box. Below the navigation bar, there is a green button with a white plus sign, also highlighted with a red box. Below this button is a list of items, each with a title and a '結果公開済' (Results Published) status:

ゼミ秋学期プロジェクト_FY2016	結果公開済
ゼミ夏合宿発表_FY2016	結果公開済
ゼミ春合宿発表_FY2015	結果公開済
ゼミ秋学期プロジェクト_FY2015	結果公開済
入門ゼミ 個人プレゼン (現ビ4)	結果公開済
入門ゼミ 個人プレゼン (現ビ3)	結果公開済
テスト用問題	結果公開済

導入手順 (2)

• 設問の設定

クイズの新規作成

```
"qa"  
"設問1", "カテゴリ1"  
"設問2", "カテゴリ1"  
"設問3", "カテゴリ2"  
"設問4", "カテゴリ3"  
"ca"  
"自由記述1"  
"自由記述2"
```

タイトル

問題文データ (csv形式)

導入手順 (3)

・受講者の設定

[peas](#)[ホーム](#)[評価する 0](#)[結果を見る 0](#)[結果一覧\(TA\)](#)[設定\(管理者\)](#)

正常に取得しました。

[戻る](#)

ゼミ春合宿発表_FY2016 0

[結果を公開する](#)[設定 ▾](#)[問題を編集する](#)[受講者を編集する 1](#)[CSVで保存する](#)[この問題を複製する](#)

法政大学 情報メディア教育研究センター

導入手順 (4)

• 評価の開始

[peas](#)
[ホーム](#)
[評価する 0](#)
[結果を見る 0](#)
[結果一覧\(TA\)](#)
[設定\(管理者\)](#)

正常に取得しました。

[戻る](#)

ゼミ春合宿発表_FY2016 **45**

[結果を公開する](#)

設定 ▾

13C1413	開始する	結果を見る 0	この学生への評価を編集する
13C2014	開始する	結果を見る 0	この学生への評価を編集する
13C2023	開始する	結果を見る 0	この学生への評価を編集する
13C2435	開始する	結果を見る 0	この学生への評価を編集する
13C3123	開始する	結果を見る 0	この学生への評価を編集する
13C3206	開始する	結果を見る 0	この学生への評価を編集する

設問例

- Story Message
 - 冒頭でテーマとアウトラインを明示した
 - アウトラインどおりに各項目をわかりやすく説明した
 - アウトラインを復習し、明快な結論を示した
- Visual Message
 - 文字が少なくわかりやすいビジュアルだった
 - 「アウトライン」と「まとめ」のスライドを入れた
- Physical Message
 - 話すスピードと声の大きさが適切だった
 - アイコンタクトを意識して行っていた
 - 立ち位置を工夫し安定した姿勢で堂々と話していた
 - 表情豊かにジェスチャーを上手に取り入れていた
- Interaction
 - 聴衆とのインタラクションができていた

事例紹介 (2)

- 実施授業
 - 「ゼミ」
 - 2～4年生（35～40名程度）
 - 個人発表、グループワーク
- ゼミということもあり、コメントを求めることに苦労はしないが、時間の制約から全員がコメントできるわけではない
- 節目節目で報告（個人・グループ）の順位付けを学生同士が行っていたが、全員が納得する方法がなかなか得られなかった

ゼミでの活用

- グループ発表にも対応している
- グループワークに参加していないゼミ生も受講者リストに加えることで評価に参加できる
- ゼミ生の意見を取り入れながら、設問項目をカスタマイズし、事前に周知しておくことで、それらを意識した準備を行わせることが可能
 - 情報収集力
 - 論理性
 - 着眼点
 - プレゼンカ
 - 質問対応力

ご清聴ありがとうございました

